

令和3年度 新潟県立阿賀黎明高等学校 第2回 学校運営協議会 議事録

1 日時

令和3年9月27日(月) 13時30分～15時30分

2 会場

新潟県立阿賀黎明高等学校 多目的ホール



3 参加者

委員6人(欠席者1名)

県教育委員会1人

(オブザーバー参加)

- ・阿賀黎明高校魅力化プロジェクト関係者5人
- ・阿賀黎明探究パートナーズ関係者2人
- ・阿賀黎明高等学校教職員7人

計21人

(参加者氏名等一覧)

(1) 学校運営協議会委員

氏名	所属・役職など	所属部会など
清野 一男	前阿賀町教育委員会教育長	会長、評価部会
遠藤 佐	阿賀町教育委員会教育長	副会長、評価部会
齋藤 俊太郎	麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長	地域協働部会
猪俣 一成	株式会社巴山組 専務取締役	地域協働部会
石川 英理香	新潟県立阿賀黎明高等学校PTA会長	評価部会
平山 剛	新潟県立阿賀黎明高等学校長	地域協働部会

(2) 県教育委員会

氏名	所属・役職など
齋藤 達也	高等学校教育課企画振興係 指導主事

(3) 阿賀黎明高校魅力化プロジェクト

氏名	所属・役職など
清野 郁男	阿賀町教育委員会 学校教育課 課長
大江 健一	阿賀町教育委員会 学校教育課 課長補佐
西田 卓司	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 塾長
及川 真央	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ
坂井 千晃	阿賀町教育委員会 学校教育課 黎明学舎 スタッフ

(4) 阿賀黎明探究パートナーズ

役職	氏名	所属・役職など
理事	高橋 眞也	阿賀まちづくり株式会社 代表取締役
監事	清野 義昭	室谷区長

(5) 阿賀黎明高等学校教職員

職名	氏名	備考
教頭	本保 正佳	学校運営協議会事務局長
教諭	伊藤 美恵子	地域連携推進教員、家庭科
教諭	荒井 一樹	教務主任、商業科
教諭	佐藤 眞	進路指導主事、数学科
教諭	西川 高司	芸術科（音楽）
教諭	小川 育久	1学年主任、英語科
教諭	吉田 紀夫	3学年主任、英語科

4 次第及び発言の概要

(1) 開会

会長挨拶（清野会長）

- 過疎化が進み、地元子どもたちが地元を支えるという視点でやっていかなくてはならない。
- 阿賀黎明高校の取り組みは今の時代にも合致しているが、定着するには何年もかかる。課題も成果も見えてくると思うが、阿賀黎明高校の取り組みが良いものになるように意見をたくさんいただきたい。

校長挨拶（平山校長）

- 県教育委員会が9月7日に「令和4年度県立高等学校等募集学級計画」の案を公表した。本校の募集学級は1学級となること、「地域探究コース」が設置されることとなる。次年度はこれまでの地域学習を一層深め、地域の皆様からの御協力の下、本校の魅力化を一層進めていきたい。
- 県教育委員会は、1月の中教審答申を受けて、各高等学校の存在意義と社会的役割等を明確化するために、地域における高校の在り方を再定義する「スクールミッション」を定めることとした。県教育委員会が示したスケジュールに沿って、この会で話された内容を踏まえ、その案を県に報告したい。その後、本協議会で示された方向を踏まえ、スクールポリシーの作成をしたい。

(2) 状況報告

- 令和3年9月7日に、新潟県教育委員会から、「令和4年度県立高等学校等募集学級計画(案)」が公表され、当校は1学級募集となる見込み。
- 本校校長が阿賀町、五泉市、阿賀野市のすべての中学校、新津第1中学校、新津第2中学校、新津第5中学校そして新潟大学付属新潟中学校を訪問し、本校の教育活動及び令和3年度「阿賀町教育留学制度」等について説明した。
- 6月21日(月)阿賀津川中学校の3年生を本校に迎え、学校説明を実施した。6月28日(月)に三川中学校において、また7月5日(月)には阿賀町文化福祉会館において高等学校説明会を実施した。
- 9月8日(水)午後に体験入学を実施し、阿賀津川中学校、三川中学校、川東中学校の3校の生徒、保護者および教職員合計21名が参加した。学校及び黎明学舎の説明、施設及び授業の見学を行った。
- 5月から「学校見学&まなび体験会」、6月から「オンライン説明会」を開始し、当校や寮の見学、阿賀町の各種の施設を見学及び自然に触れてもらった。「学校見学&まなび体験会」には、のべ19家族、「オンライン説明会」には、のべ91名の参加申し込みがあった。

(3) 授業時における地域との連携について(黎明学舎 西田より)(資料1参照)

1・2年の「阿賀町さいこうプロジェクト(総合的な探究の時間)」の支援及び2・3年における「地域学Ⅰ」「地域学Ⅱ」の支援を行っている。

(4) COREハイスクール・ネットワーク構想について(県教育委員会より)(資料参照)

- プロジェクトの目的、概要(三本柱:遠隔授業、学校間連携、地域との連携・協働)について。
- 遠隔授業の準備は着々と進んでおり、配信校では、大型プロジェクターや、授業を配信するためのパソコン等の機器が10月下旬までに整備される見込み。受信校では、1人1台のタブレット端末が配備され、教師の顔を大型スクリーンで見ながら、手元のタブレットに様々な課題が配信される授業設計を練っている。
- 令和3年度は、遠隔事業のシステムの開始と設置、地域連携、地域協働を具体的に設計する年になっている。令和4、5年は、県内のみならず県外に発信する予定。
- プロジェクトの評価と検証について、アンケートや評価項目に対して検証し、次回の会議で具体的に掘り下げていく。
- プロジェクトの今後の課題(地域との連携・協働)
  - ① 地域と学校を円滑につなぐコーディネーターの存在が必須。佐渡では、コーディネーターの継続的な確保が大きな課題。現在は、佐渡市役所職員で対応しているが、厳しい状況。
  - ② 探究活動が単なる調べ学習で終わることなく、コンソーシアムを中心にいかに支援してかが課題。
  - ③ 学校内外で活動する際の責任の所在が課題。
  - ④ 地域と連携した学びに対する評価は、定量的な評価が難しく、形成的な評価をいかに深め

ていくかが課題。

- 実際関わっている学校や生徒にとって、このプロジェクトのゴールをどこに設定するのかを議論をする必要がある。

(5) 質疑応答

(平山校長)

- 生徒募集について、中学校訪問を行った印象では、阿賀黎明高校の取り組みや町からの協力についてかなり認知されている。
- オンラインによる学校説明会を複数回実施している。現地体験会にもかなりの数が参加している。

(清野会長)

- 今年度 10 人くらいが（県外生および県内他地域からの）入学したと思うが、そのうち黎明学舎には何人くらい通っているか。
- 県外および県内他地域から生徒が入学してどのような効果があったか。諸活動、学習面、人間関係の面などいろいろな変化が現れているのか、具体的に教えてもらいたい。

(西田 黎明学舎塾長)

- 寮生のうち、登録している生徒は 9 名。部活などがあるので、実際、利用している生徒は 3 名である。

(平山校長)

- 他県や町外の生徒がいることで、地元の生徒たちも緊張して高校生活を送っている。新しい考え方に触れる機会になっている。そういう意味では視野が広がっていると思う。
- 「広い視野で考える」という姿勢が芽生え始めている。

(清野会長)

- 県外から来た生徒、町外から来た生徒についてはいろいろなケースが想定される。いろいろな問題をクリアして、いい環境作りをしていくことが大事だと思う。
- 数年後を見すえて指導をお願いしたい。地元の生徒との関係性なども配慮してもらいたい。

(齋藤委員)

- スクールミッションの再定義とスクールポリシーの策定について説明してもらいたい。

(齋藤指導主事)

- 中央教育審議会において、新しい日本型の教育を行うという方針の下、学校の在り方というものを各地域でよく話し合った上で再定義する必要がある。
- 普通科でありながら、どういう特色を持っているのかを地域の力を借りながら再定義していく。
- 再定義していくのは県教育委員会であり、その再定義を踏まえて、「この学校は社会的に、地域的にこういう存在意義がある」ということを定めた後で、学校としてはどういう方針をもって学校づくりに取り組んでいくのかが必要となる。
- 来年度は、阿賀黎明高校に「地域探究コース」が設置される。この学校にとって追い風になると思う。

- 「ミッション」、「ポリシー」の再定義にあたっては、地元自治体の協議を踏まえることとなっている。学校運営協議会の場で「ミッション」、「ポリシー」が策定されていくということは、間違いなくこの学校が最初である。

(清野会長)

- 遠隔授業についての各校への人的な支援はどうなっているのか。

(平山校長)

- 職員に負担がかかるようであれば、在り方を考えてもらわなくてはならないと県教育委員会には伝えてある。
- その場の授業で生徒の支援を行う人は必要である。県と協議しながらどのような人が可能かということ、予算がどうなっているのかを詰めているところである。

(齋藤指導主事)

- 遠隔授業は機器だけではなくて、配信する教員の力量や受信教室の在り方を充実させていかなくてはいけない。
- 配信を行う教員は授業だけではなく、秋は進学補習等も配信していく事になる。進学補習を配信するにあたっては、勤務歴の中で進学校に勤めた経験がないとなかなか厳しい。補習における質の担保についても県としては考えている。
- 受信側の先生に過大な負担をかけるということは県としても本意ではない。受信教室の在り方も含めて、検証していかなくてはならない。教員以外の方々にも受信教室のサポートに回っていただけないかということ、今回この事業では特例として認められているので、様々な措置を考えている。

(遠藤副会長)

- 地域と学校をつなぐコーディネーターの継続的確保について、高校ではコーディネーターの位置づけをどのように考えているのか。

(齋藤指導主事)

- 一部の県を除き、県立高校に学校と地域をつなぐコーディネーターの設置はそれほど進んではない。
- 阿賀黎明高校では阿賀町の多大な支援の下、コーディネーター的な役割を果たす方々に支えられているという認識でいる。
- 県教育委員会としても、地域政策課の職員と話をしている中で、県が設置するコーディネーターについても少しずつ検討を始めている。必要性については認識している。

## 5 熟議

「高校3年間の未来ストーリーワークショップ」

- グループに分かれ、3年間の高校生活における「成長ストーリー」について検討した。

## 6 閉会

副会長挨拶(遠藤副会長)

- 今年になって阿賀黎明探究パートナーズの皆様の協力やご支援が具体的に始まった。やっていくうちに洗練されていくところがあるだろうし、支援する地域の人をどんどん増やしていきたい。
- 県内で初めてのコミュニティ・スクールとしての取組が阿賀黎明高校で始まった。今後、他の高校においても学校運営協議会が設置されると思う。阿賀黎明高校が新潟県の先進的な地域連携のモデルとなるよう、今後も取り組みをを強化していきたい。

## 令和 3 年度活動中間報告

阿賀黎明探究パートナーズ 事務局

### 【全体像】

- 1 1年、2年「阿賀町さいこうプロジェクト（総合的な探究の時間）」の実施支援
- 2 2年、3年「地域学Ⅰ」「地域学Ⅱ」の実施支援

### 【各授業での取り組み概要と日程・予定】

- 1 1年「阿賀町さいこうプロジェクト」
  - ・トークフォークダンス（7月9日・16日：実施済）
  - ・あがまちゼミ（8月27日：実施済、10月15日・29日、11月12日：予定）
- 2 2年「阿賀町さいこうプロジェクト」
  - ・職業人インタビュー（6月30日：実施済）
  - ・職場体験（10月19日：予定）
- 3 2年「地域学Ⅰ」
  - ・地域プロジェクト紹介（6月1日）
  - ・地域プロジェクト実施（6月22日、7月6日、9月7日・21日：実施済、10月12日  
10月26日、11月16日・30日、12月14日：予定）
  - ・夏休みプロジェクト（7月29日（福祉）、8月6日・24日（まちづくり）  
8月8日（農業）：実施済）
- 4 3年「地域学Ⅱ」
  - ・ふるさとCM大賞作品制作（4月～9月 毎週金曜日5・6限：実施済）

### 【活動の様子】

1年「トークフォークダンス」「あがまちゼミ」



## 【2年「地域学Ⅰ」】

土木チームと商業チーム



農業チームと福祉チーム



まちづくりチームと観光チーム



## 【3年「地域学Ⅱ」】



# 新潟の未来を SaGaSuプロジェクト

Sado（離島）とAga（中山間地域）とSuikou（都市部）のネットワーク7校の取組で、新潟の高校教育の未来を拓く

↑ 佐渡大野亀のトビシマカンゾウ  
「2021新潟県のすがた」(新潟県)より

↓ 阿賀野川と麒麟橋(齋藤撮影)

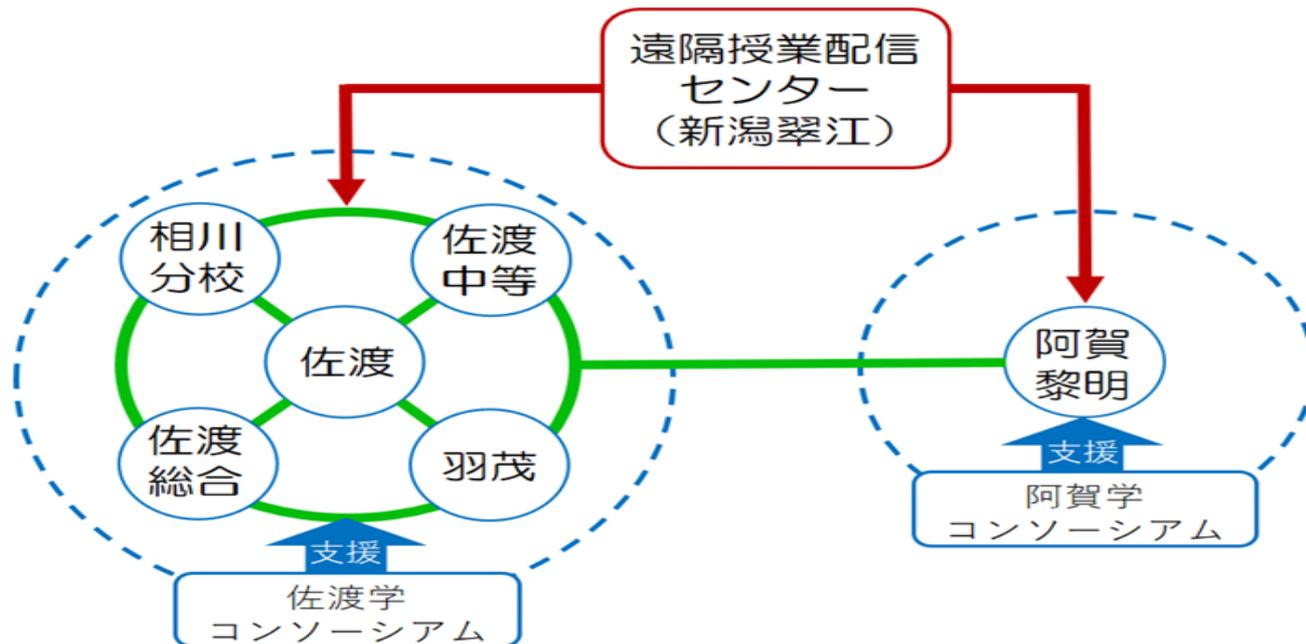
## これまでの進捗状況と今後の取組

新潟県教育庁高等学校教育課



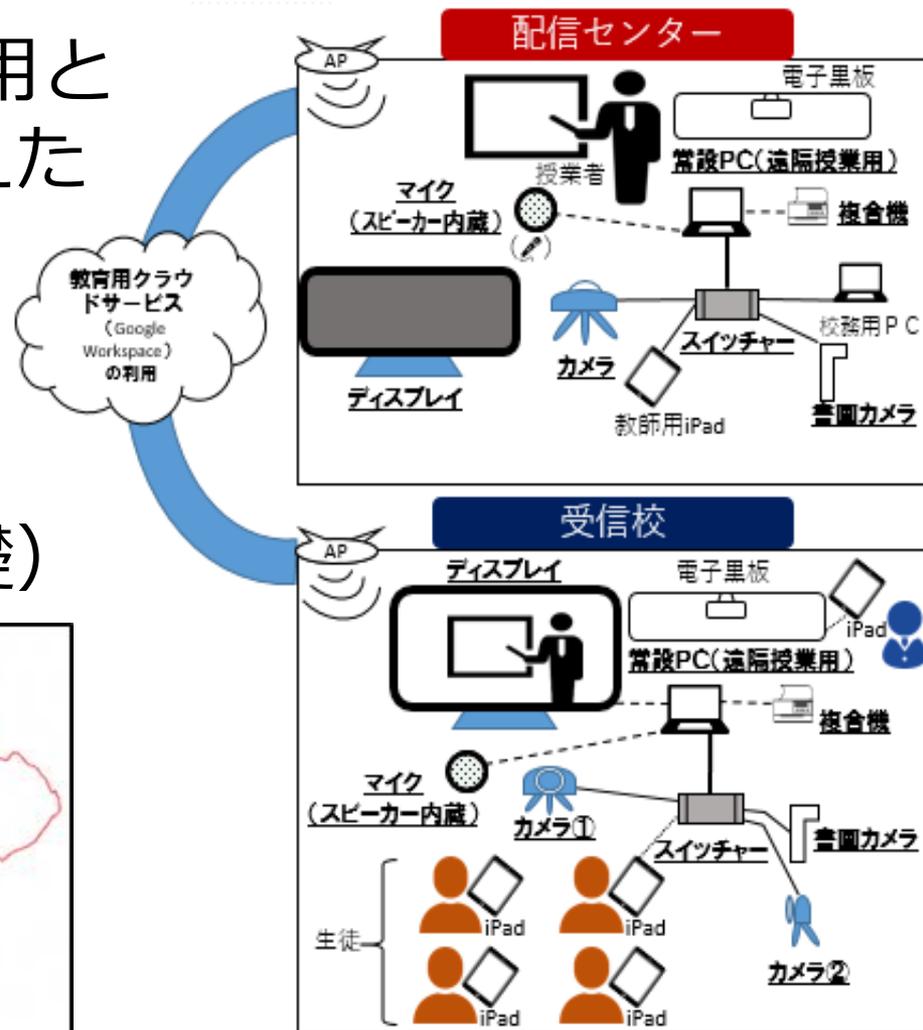
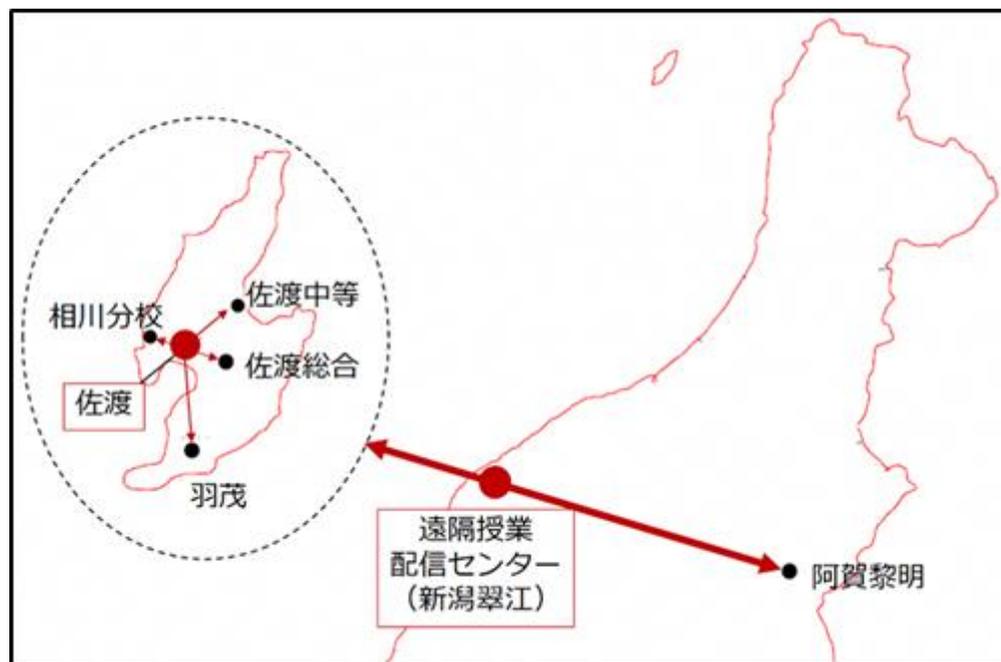
# 1 プロジェクトの目的

- ① 「教科・科目充実型」の遠隔授業の実施による、離島・中山間地域の教育の充実
- ② 学校間連携による、自校や地域を越えた教育活動の充実
- ③ 地域協働コンソーシアムの構築・支援による、探究力・人間性を身につけた、地域を支える人材育成



## 2 プロジェクトの概要 (1) 遠隔授業

- ① Googleの各種アプリ活用と1人1台端末環境を踏まえた遠隔授業システムの構築
- ② ネットワーク構成校の教育課程の一部共通化  
(例：地学基礎)



- R 3 : 延べ 2 校に 3 科目配信
- R 4 : 延べ 5 校に 9 科目配信
- R 5 : 延べ 5 校に 18 科目配信

## 2 プロジェクトの概要（2） 学校間連携

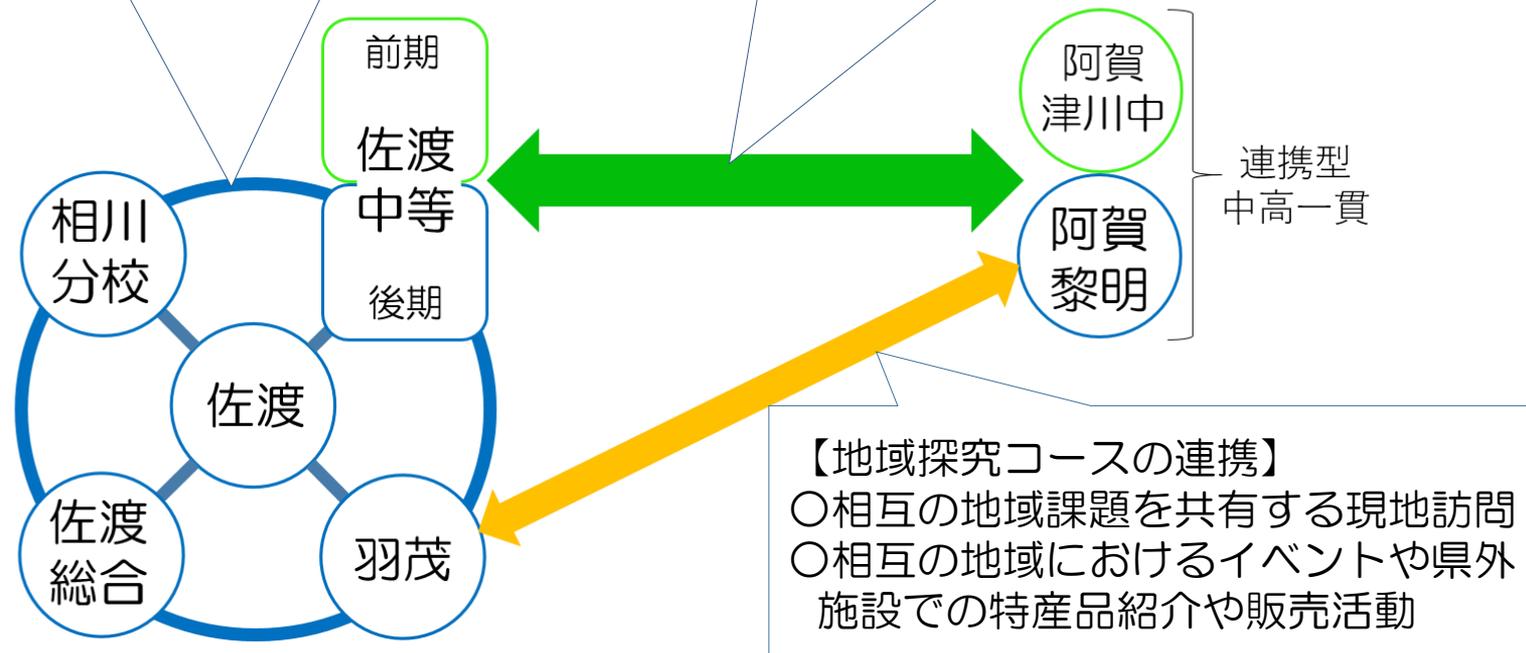
- ① ネットワーク校6校による調査研究
- ② 中高一貫教育校による調査研究
- ③ 地域探究コース設置校による調査研究

### 【佐渡市内5校の学校間連携】

- 佐渡の魅力や高等学校連携に関するWEBページやSNSの作成・発信
- 離島を語り尽くす高校生サミットの企画・運営

### 【中高一貫教育校の学校間連携】

- 町立阿賀津川中学校と佐渡中等教育学校前期課程の総合学習の合同発表
- 中高一貫の魅力語るシンポジウムの開催



## 2 プロジェクトの概要 (3)

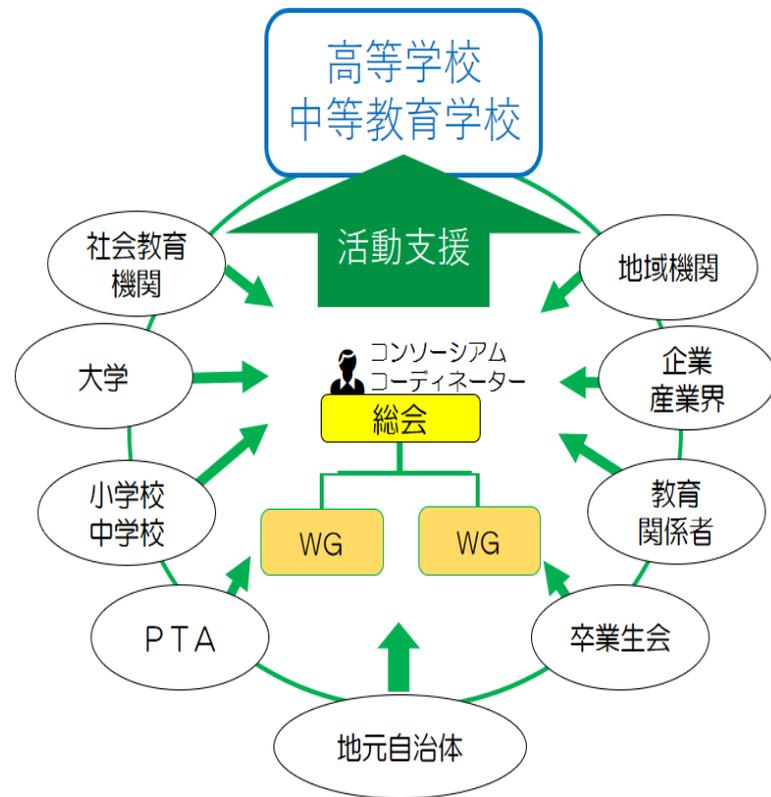
## 地域との連携・協働

### 【コンソーシアムの基本理念】

- 生徒が「主語」になる
- 生徒が「手応え」を実感できる
- 生徒が「本物」と出会える
- 生徒が「地域らしさ」から学べる
- 生徒も大人も「ワクワク」しながら活動

主体性の確保  
自己肯定感の高まり  
百聞は一見にしかず  
郷土愛の醸成  
探究心の刺激

年度	主な取組
R 3	コンソーシアムの構築、学校支援の開始
R 4	コンソーシアムとの協議を踏まえた「スクール・ミッション」の再定義及び「スクール・ポリシー」の策定についての検討
R 5	学校間連携及び地域コンソーシアムの構築と生徒のキャリア形成に関する調査研究の総括



# 阿賀学コンソーシアム

構成団体（予定）
阿賀町
阿賀町教育委員会
新潟大学
新潟県建設業協会津川支部
麒麟山酒造株式会社
阿賀町観光協会
東蒲原郡森林組合
阿賀町社会福祉協議会

## 学校運営協議会（コミュニティ・スクール）

委員	備考
阿賀町教育委員会 前教育長	会長
阿賀町教育委員会 教育長	
阿賀町立阿賀津川中学校 校長	
麒麟山酒造株式会社 代表取締役社長	
株式会社巴山組 専務取締役	
阿賀黎明高校 P T A 会長	
阿賀黎明高校 校長	

### 【阿賀学コンソーシアムの特徴】

- 学校運営協議会（令和2年4月設立）が中核組織
- 阿賀町による「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」（公営塾設置、県外入学者増への支援）、地域住民による「阿賀黎明探究パートナーズ」の組織等、手厚い支援

# 佐渡教育コンソーシアム（令和3年3月設立）

構成団体	
佐渡市	新潟工科大学
佐渡市教育委員会	新潟県佐渡地域振興局
佐渡市小学校長会	佐渡連合商工会
佐渡市中学校長会	佐渡青年会議所
新潟県高等学校校長協会（佐渡地区）	佐渡工業会
新潟大学	新潟県建設業協会佐渡支部
大正大学	佐渡観光交流機構

## 【佐渡教育コンソーシアムの特徴】

- 佐渡市役所はじめ、14団体が参加
  - 佐渡の地域資産（\*）を活かした探究活動等の支援を予定
- \* 世界農業遺産・世界ジオパークに代表される自然資産や佐渡金山等の歴史遺産、鬼太鼓や能楽といった伝統芸能等

# 3 プロジェクトの組織構成

【管理機関】新潟県教育委員会  
(事務局) 高等学校教育課

指導・助言

## 指導委員会

各分野の学識経験者で構成 (年3回開催)

【高校教育】	京都大学大学院教育研究科	石井英真	氏
【遠隔教育】	教育情報推進化機構	東原義訓	氏
【地域連携】	新潟大学大学院現代社会文化研究科	長尾雅信	氏
【産業界】	新潟経済同友会	高堂景寿	氏
【地方創生】	株式会社自遊人	岩佐十良	氏

## C I O

遠隔授業システム設置及び活用に関する指導・助言

県教育庁参与 (遠隔教育推進担当) 大橋英喜

## 庁内事業ユニット

庁内実務担当者による事業の情報共有等

教育庁各課 知事部局各課 教育センター

指導・管理

## ネットワーク校

佐渡高校 佐渡高校相川分校  
羽茂高校 佐渡総合高校  
佐渡中等教育学校  
  
阿賀黎明高校  
  
新潟翠江高校

佐渡市を中心とした  
コンソーシアム

阿賀町を中心とした  
コンソーシアム

# 4 3カ年の調査研究計画

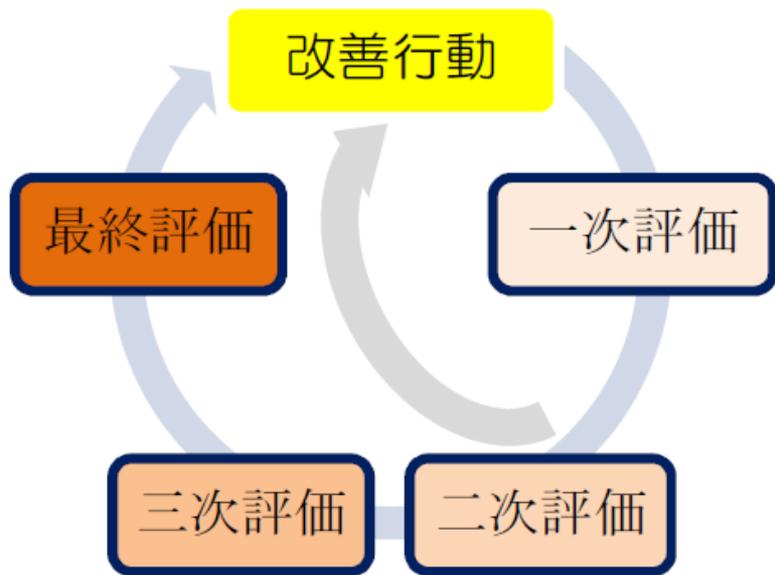
テーマ	新潟の未来をSaGaSuプロジェクト「持続可能な離島・中山間地域を目指して」 ～ICTの活用と連携・協働による地域人材の育成モデルの構築～		
	小規模校の教育の質を維持・向上させる遠隔授業モデルの構築	同一自治体内の複数校間連携モデル及び小規模校間連携モデルの構築	地域を深く理解し、探究的に学ぶための地域協働体制構築
R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業配信センターの設置、遠隔授業システムの構築 (R3)</li> <li>○遠隔授業試行による展開及び評価に関する調査研究 (R3)</li> <li>○タブレットとクラウドを活用した遠隔授業の実施 (R3～R5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ネットワーク校6校による学校間連携 (R3～R5)</li> <li>□中高一貫教育校の連携 (R3～R5)</li> <li>□「地域探究コース」校の連携 (R3～R5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域協働コンソーシアムの構築(R3)</li> </ul>
R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○理科など実習を伴う教科・科目における遠隔授業の調査研究 (R4・R5)</li> <li>○佐渡・阿賀の地質・鉱物等の学習に係る教育課程の共通化に関する調査研究 (R4・R5)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域協働コンソーシアムの活動を踏まえた「スクール・ミッション」の再定義及び「スクール・ポリシー」の策定(R4・R5)</li> <li>●地域と連携・協働した活動による生徒や地域の変容の評価に関する調査研究 (R4・R5)</li> </ul>
R5		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学校間連携をいかした遠隔授業の実施 (R4・R5)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学校間連携と地域連携・協働による課題研究の共同実施に関する調査研究 (R4・R5)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">学校間連携と地域コンソーシアムの構築と生徒のキャリア形成に関する調査研究 (R5)</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">最終事業報告会 (シンポジウム) の開催と事業評価 (R5)</div>

# 5 プロジェクトの検証と評価

## ① 検証・評価方法（例）

- ・ 遠隔授業の実施に係る授業アンケート（学校）
- ・ 探究学習・課題研究に係るポートフォリオ（学校）
- ・ 学校生活アンケート及び学校自己評価（学校）
- ・ 高校生意識調査（県教育委員会）
- ・ 高等学校魅力化評価システム（一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム）

## ② 評価体制の重層的構造とPDCAサイクルの確立



- 一次評価：各学校の事業推進組織や職員会議での定量的・定性的評価
- 二次評価：各コンソーシアムの評価部会（総会内に設置）での二次評価
- 三次評価：庁内事業ユニットでの一次・二次評価の妥当性等について再評価
- 最終評価：指導委員会が上記のプロセスを経た評価報告書に基づき指導・助言

# 6 令和3年度の進捗状況（4～6月）

	①遠隔授業・学校間連携の取組 ○：遠隔授業 □：学校間連携	②地元自治体等の関係機関と 連携・協働した取組
4月	○新潟翠江高校通信制課程に遠隔授業 配信センターを設置 ○ネットワーク各校で推進チームを組織	●佐渡教育コンソーシアム幹事会
5月	ネットワーク校PTAに対する事業説明（訪問、オンライン）	
	指導委員会設置、指導委員委嘱	
		●阿賀黎明高校学校運営協議会 第1回会議
6月	□学校間連携キックオフイベント	
	第1回 庁内事業ユニット会議	

# 事業の進捗状況（5月）

## 阿賀黎明高校 学校運営協議会 第1回会議

### 【阿賀黎明高校魅力化プロジェクトの支援】

- 「地域みらい留学フェスタ\*」への参加等で、県外生徒募集活動  
→令和3年度は町外から10人の入学者（うち県外5人）、9人の入寮
- 令和3年度も、地域みらい留学フェスタに参加するとともに、町外・県内の生徒に向けた「学校見学&まなび体験会」参加も呼びかける。

### 【阿賀黎明探究パートナーズの支援】

- 次の授業及び活動の講師及びコーディネーターとして支援を行う。
  - ・ 学校設定科目「地域学」（2年）の活動支援
  - ・ 総合的な探究の時間「阿賀学」の活動支援（1年）
  - ・ 職業人インタビュー及び職場体験（2年）

### 【今後に向けて】

- 今春の国公立大学3人進学や町外入学者10人は素晴らしい成果である。今後、持続可能な高校であるためには、地元中学校からのある程度の入学が必要である。
- 広報の仕方を工夫して発信するとともに、学校の理想像も語っていく必要がある。前提として学校に魅力がないといけない。

# 事業の進捗状況（3月）

## 佐渡教育コンソーシアムの設立

### 【コンソーシアムの方向性】

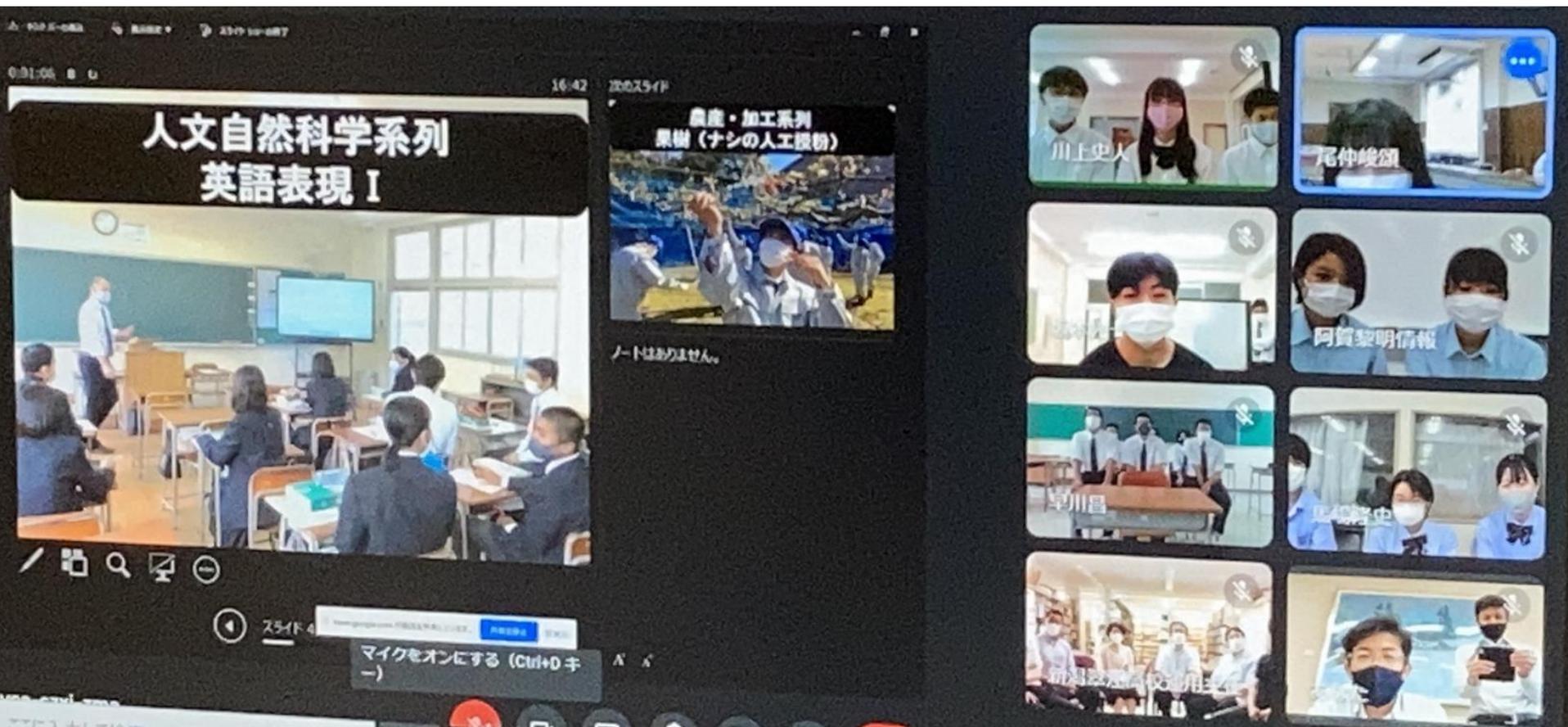
「島留学」と「大学連携・地域連携」に関するワーキンググループを設置し、高校等の活動の支援について検討していく。

### 【主な意見】

- ①佐渡に生まれ育った子どもたちの選択肢としての高校と、②島外からの佐渡の高校で試したい、頑張ってみたい子どもたちへのアピールとその環境整備の検討と分けた方がよいのではないか。
- 地域活性化や課題解決のために、子供たちの視点から、地域住民や業界団体の人達と交流しながら議論やイベント参加してもらおう。そこに大学等と一緒に参加し、仲介役を果たしながら、地域や業界の問題解決に繋げる。その活動を通して、子供たちの佐渡ヶ島への興味を深め、成長を促す。
- 各学校のホームページを拝見すると、それぞれに特色を出し、取り組みを行っているように見受けられるため、まずは現場の教職員や地域のニーズを把握することが大切かと思われます。

# 事業の進捗状況（6月）

## 学校間連携（生徒間交流）キックオフイベント



- 各校の代表生徒がスライド・動画を用いて自校の紹介
- プロジェクトの「ロゴ」と「webページ」作成に向けて各校からアイデア募集

# 事業の進捗状況（6月）

## 庁内事業ユニット会議の開催

### 【主な意見】

地域おこし協力隊や集落支援員も活用できるとよいと思う。また、クラウドファンディングにより活動の支援体制を整えることも可能である。  
（地域政策課）



行政でのICT整備を進めようとしているが、ICTに対して苦手意識を持つ職員が多く、学校現場でも同じかと思う。うまく使えないから、前向きになれないというようなことにならないように、安心して使えるようなサポート体制がほしい。  
（ICT推進課）

「いじめ見逃しゼロ県民運動」に関連した「いじめ見逃しゼロスクール集会」などにおいて、例えば新潟翠江高校に講師に来てもらい、ネットワーク構成校に配信、各校で話し合いを行い、それを踏まえて構成校同士でまた交流するといった活動が考えられる。（生徒指導課）

部活動でのかわりになると思うが、対象となっている学校の実情からすると、運動部よりも文化部において専門家を活用する、共同制作を行うなどの活用が考えられるのではないか。（保健体育課）

# 7 令和3年度の進捗状況（7～9月）

	①遠隔授業・学校間連携の取組 ○：遠隔授業 □：学校間連携	②地元自治体等の関係機関と 連携・協働した取組
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大橋参与（遠隔教育推進担当）委嘱</li> <li>○遠隔教育先進県視察</li> <li>○GoogleWorkspaceを活用した教職員・生徒の情報共有開始</li> <li>○遠隔授業システムの機器設置準備</li> <li>○遠隔授業に関する教職員研修（導入機器の説明と活用）</li> <li>□体験入学に関する意見交換</li> <li>□プロジェクトのロゴ・webサイト作成ミーティング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●校外での探究活動とコンソーシアムの支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学・専門機関訪問や現地研修</li> <li>・地元企業でインターンシップ</li> </ul> </li> <li>●地元企業説明会及び企業訪問の実施（3年）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業に関する教職員研修（授業方法や授業評価の協議）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高校生模擬議会への参加（羽茂・佐渡総合の2校）</li> <li>●探究活動レポート作成（1・2年）</li> <li>●地域住民と連携した文化祭の企画</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業システムの機器設置</li> <li>○各校で生徒対象遠隔授業説明会実施</li> <li>○R4校時表の協議</li> <li>□前期活動の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンソーシアム会議②（前期の取組の振り返りと後期活動計画について）</li> </ul>

第1回 指導委員会

# 8 令和3年度の実施計画（10～12月）

	①遠隔授業・学校間連携の取組 ○：遠隔授業 □：学校間連携	②地元自治体等の関係機関と 連携・協働した取組
10月	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔授業試行（クラウド及びタブレットも活用）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟翠江高校 → 阿賀黎明高校</li> <li>・佐渡高校 → 羽茂高校</li> </ul> </li> <li>○新潟翠江高校から全構成校へ放課後進学補習配信（月4回以上）</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○構成校の遠隔授業合同研究会②（全国フォーラムへの参加）</li> <li>□Webサイトを活用した各校の文化祭の魅力発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンソーシアムの支援による地域理解を深める講演会等の実施           <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、研究所等による地域理解を学問的に深める学術講演会</li> <li>・地域の各専門家を招いた地域文化ワークショップ</li> </ul> </li> </ul>
	第2回	庁内事業ユニット会議
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公開授業（授業展開に関する研究）</li> <li>○遠隔C I Oによる教職員研修②</li> <li>□生徒会長らによる「生徒活動協同体」（仮称）設立（R4年度）に向けた協議開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンソーシアムの支援を受けた地域住民参加型の文化祭の実施</li> </ul>
	第2回	指導委員会
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○構成校の遠隔授業合同研究会③（授業の評価に関する研究）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ネットワーク各校代表者による探究活動の合同発表会</li> </ul>

# 9 令和3年度の実施計画（1～3月）

	①遠隔授業・学校間連携の取組 ○：遠隔授業 □：学校間連携	②地元自治体等の関係機関と 連携・協働した取組
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○遠隔C I Oによる教職員研修③</li> <li>○構成校によるR 4校時表の調整確定</li> <li>□専用W e bサイトやS N Sの発信 における成果と改善点の協議</li> <li>□1年間の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●探究的学習の総括レポート作成</li> <li>●次年度の課題研究テーマ検討(1年)</li> <li>●地域人材育成キャリア講演会</li> <li>●生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査の実施</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">第3回 庁内事業ユニット会議</div>		
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全県対象遠隔授業研究協議会 (公開授業含む)</li> <li>□構成校の遠隔授業合同研究会④ (R 4年度遠隔授業実施に向けた 情報共有)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンソーシアム総会③（1年間の 取組の評価と次年度に向けて）</li> <li>●次年度課題研究の共同研究グループの マッチングを検討</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">第3回 指導委員会</div>		
3月	<p>管理機関による1年間の取組の総括 と次年度に向けた準備</p>	<p>管理機関による1年間の取組の総括と次 年度に向けた準備</p>

## 10 プロジェクトの今後の課題（地域との連携・協働）

- 地域と学校をつなぐコーディネーターの継続的確保
- 探究活動が単なる「調べ学習」に陥らないための学校支援
- 校外活動とサービスの問題
- 地域との連携・協働した学びに対する評価方法の検証

学校側とか**生徒目線**  
で見たときに、何が  
このプロジェクトの  
ゴールなのか